



第2回 持続可能な地域コミュニティの実現に向けたワークショップ

～第1回ワークショップで出た市民、事業者、地域団体のそれぞれの役割についての意見（まとめ）～

広島市企画総務局 コミュニティ再生課

1 第1回ワークショップの概要

第1回ワークショップの目的

地域に関わる市民、地域団体（ひろしまLMOを含む。）、事業者の主体ごとに、持続可能な地域コミュニティの実現に向けたそれぞれの役割に関する意見を幅広く聴き、広島市地域コミュニティ活性化推進条例（仮称）の「各主体の役割等」に関する意見を集約する。

第1回ワークショップの実施内容

「第1回 持続可能な地域コミュニティの実現に向けたワークショップ」

1 日時

- (1) 2024年3月23日（土） 18:00～20:30
- (2) 2024年3月24日（日） 9:30～12:00

2 場所

広島大学東千田キャンパス 地域連携フロアSENDA LAB

（広島市中区東千田町一丁目1-89 東千田キャンパス総合校舎L棟5階）

3 参加者

- (1) 計42名（市民14名、事業者17名、地域団体11名）
- (2) 計39名（市民14名、事業者12名、地域団体13名）

1 第1回ワークショップの概要

第1回ワークショップの実施内容（続き）

4 実施内容

【プロローグ】持続可能な地域コミュニティの実現に向けて（説明者：コミュニティ再生課）

広島市地域コミュニティ活性化ビジョン、広島型地域運営組織「ひろしまLMO」、本ワークショップの目的等についてコミュニティ再生課職員から説明を行った。

【基調講演】人口減少日本でこれから起きること（講師：河合雅司氏）

全国や広島市の人口減少についての統計データを基に、これから、出産期の女性が激減し、日本人の減少は止まらない、過去の成功体験は通用しない、人口減を前提として考えることなどを説明するとともに、人口減少社会においては、市役所の役割を見直し共助の充実を図るなどのコミュニティの再構築や、住民が自分たちの住んでいる地域に誇りを持ち、住民主導のまちづくり案を持つことが重要であるとの講演を行った。

【ワークショップ1】地域の「これから」を考える（メインファシリテーター：丸山法子氏）

「プロローグ」、「基調講演」を聞いて感じたことなどを参加者で共有した。

【ワークショップ2】地域コミュニティを持続可能なものにするためにわたしたちがすべきこと

市民、事業者、地域団体の立場でそれぞれすべきこと、また、その方法について参加者で話合った。

2 第1回ワークショップで得られた主な意見

持続可能な地域コミュニティを実現するための市民の役割

学び合いの機会を作る。地域を学ぶ教育

オープンスペースを充実させる。公民館等を行きたくなる場所に変える。

地域のことを知る。

地域の活動に若い人に参加してもらう。地域と関わる機会を増やす。

他の地域ともつながる（行事、イベントの協同）。

既存の組織間がコラボできる仕組み、仕掛けづくり

2 第1回ワークショップで得られた主な意見

持続可能な地域コミュニティを実現するための地域団体の役割

防災マップを子どもたちと一緒に作る。子ども食堂を行って子どもたちとつながる。

地域のニーズの掘り起こしを行う。

学校との関係を良くして地域活動に協力してもらう。

学校運営協議会を通じて、団体への参加を呼び掛ける。

地域の大学と連携・コラボする。

あらゆる人と団体をつなげる。

過去の活動、情報発信、システム作りを見える化していく。

2 第1回ワークショップで得られた主な意見

持続可能な地域コミュニティを実現するための事業者の役割

「地域プライド」の基になるもののひとつである「祭り」に参画する。

自分の住む地域を歩いてどのような人がいて、どのような地域性があるかを知る。

公民館など地域の気軽な講座への参加

自社ノウハウを提供することで、地域で行っている色々な手間を少なくする。

災害時に会社にあるストック物資を地域に提供する。

施設内の「場」を地域に提供する。

社員は地域住民でもあるという意識で地域行事へ参加する。

2 第1回ワークショップで得られた主な意見（他属性に実施してほしいこと）

市民→事業者

- ・企業にスポンサーになってもらいたい。
- ・企業とコラボしたい。
- ・企業に予算を提供してもらいたい。

事業者→地域団体

- ・様々な不安や、できることを相互に話せる「場」を作る。
- ・できることできないことを明確化しておいてほしい。
- ・動く団体と管理する団体を分けておく。
- ・活動を有償化し、お金を稼ぐことを考えてほしい。
- ・地域住民や地域団体が思っていることを事業者に伝えてほしい。そしてニーズの擦り合わせを行っていききたい。
- ・参加の声掛けをしてほしい。
- ・社会福祉法人を使ってほしい。

2 第1回ワークショップで得られた主な意見（他属性に実施してほしいこと）

地域団体→市民

- ・何を求めているか意見を出してほしい。
- ・団体への加入はしなくても、イベントや取組には参加してほしい。

地域団体→事業者

- ・パソコンスキル、組織運営スキルの指導、コンサルに入ってもらいたい。
- ・定年退職者のスキルのある人材を斡旋・紹介してもらいたい。
- ・祭り等に出店してもらおう。ボランティアで関わってもらおう。
- ・ひろしまLMOに入ってもらおう。
- ・企業にできること、したいこと、やりたいことをアピールしてほしい。
- ・子ども食堂にスーパーから食材提供をしてほしい。
- ・イベントで企業の協賛品と人を出してほしい。
- ・企業から従業員に地域に出るように働きかけてほしい。
- ・ひろしまLMOの賛助会員になってもらおう。

2 第1回ワークショップで得られた主な意見（他属性に実施してほしいこと）

地域団体→事業者（続き）

- ・災害時に支援してもらいたい。
- ・赤い羽根募金は企業も参加しているので、その関係で企業にもLMOに参加してもらおう。
- ・災害時に道が寸断されると孤立するので、建設会社にも高齢者等の把握や住民とのつながりを作してほしい。
- ・企業のITのノウハウを地域に提供してほしい。

3 条例制定における本ワークショップの位置づけ

持続可能な地域コミュニティの実現に向けたワークショップ

○第1回（令和6年3月23日、24日開催）

- ・市からの情報提供
- ・基調講演
- ・ワークショップ

【テーマ】

- ①地域のこれからを考える
- ②地域コミュニティを持続可能なものとするためにわたしたちがすべきこと

○第2回（令和6年5月18日、19日開催）

- ・市からの情報提供
- ・ワークショップ

【テーマ】

地域の課題解決のために市民、地域団体、事業者ができることを考える

条例の構成（イメージ）

広島市地域コミュニティ活性化推進条例（仮称）

前 文

目 的

定 義

基本理念

各主体の役割、市の責務

施策の基本方針

財政上の措置

4 他都市の条例における各主体の役割について

市民の役割

(京都市)

- ・ 地域住民は、地域コミュニティの重要性を理解し、地域活動に積極的に参加し、及び協力することにより、地域コミュニティの活性化の推進についての役割を果たすものとする。
- ・ 地域住民は、地域自治を担う住民組織に多くの地域住民が主体的に参加する状況となることを目指し、地域住民相互の交流及び協働についての役割を果たすものとする。

(福岡市)

- ・ 市民は、自らが暮らす地域コミュニティに関心を持ち、その一員として、それぞれの状況に応じ、地域活動に自主的に取り組むよう努めるものとする。

4 他都市の条例における各主体の役割について

地域団体の役割

(福岡市)

【町内会等の役割】

第5条 町内会等は、市民に最も身近な自治組織として、当該町内会等の区域における市民のつながりや支え合いを促進するよう努めるものとする。

2 町内会等は、民主的で透明性のある運営に努めるとともに、当該町内会等の区域における市民がその運営及び活動に参加しやすい環境づくりに努めるものとする。

【自治協議会の役割】

第6条 自治協議会は、当該自治協議会の区域における良好な地域コミュニティの維持及び形成に努めるものとする。

2 自治協議会は、町内会等のほか、防災、防犯その他の分野ごとに活動する組織等が相互に協力しながら円滑に活動することができる環境づくりに努めるものとする。

3 自治協議会は、民主的で透明性のある自律した運営に努めるものとする。

4 他都市の条例における各主体の役割について

事業者の役割

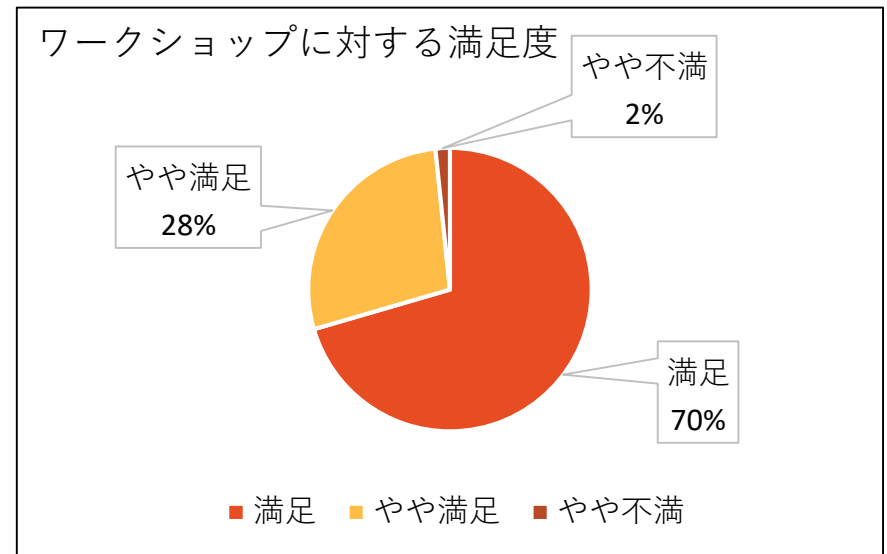
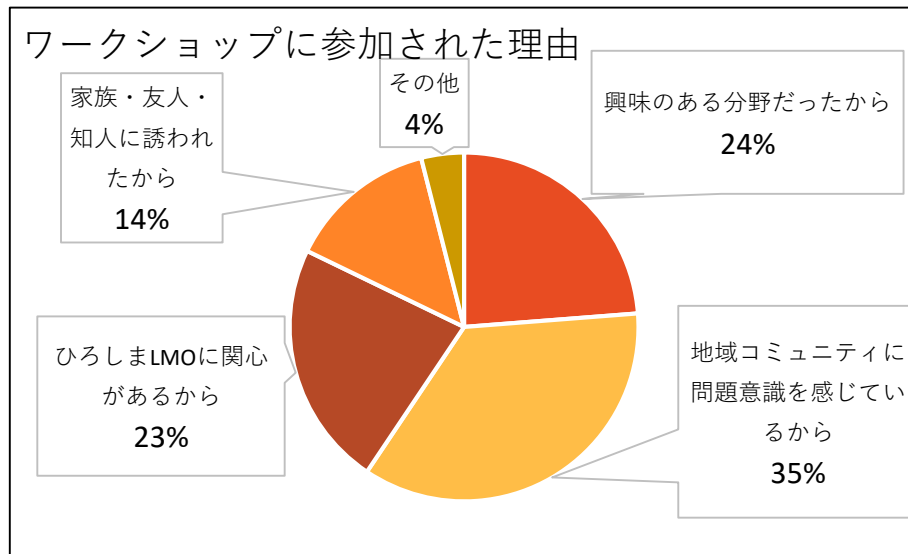
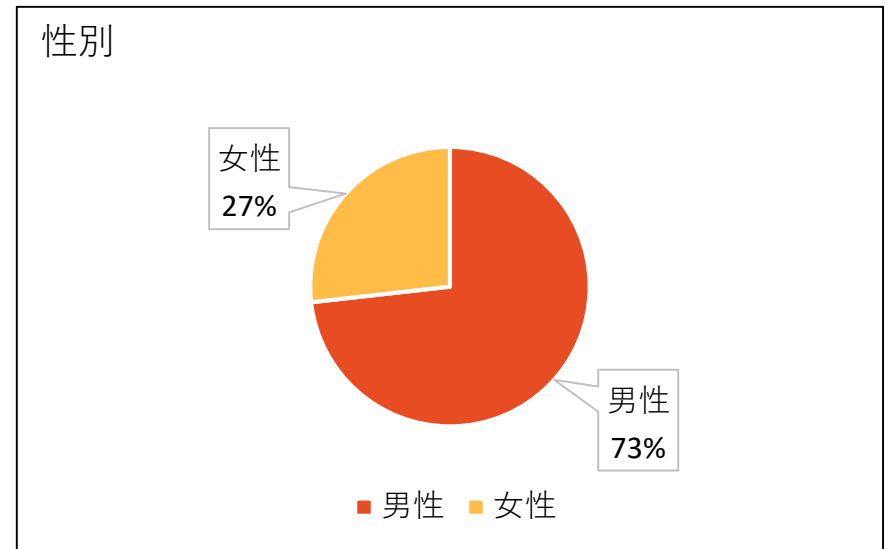
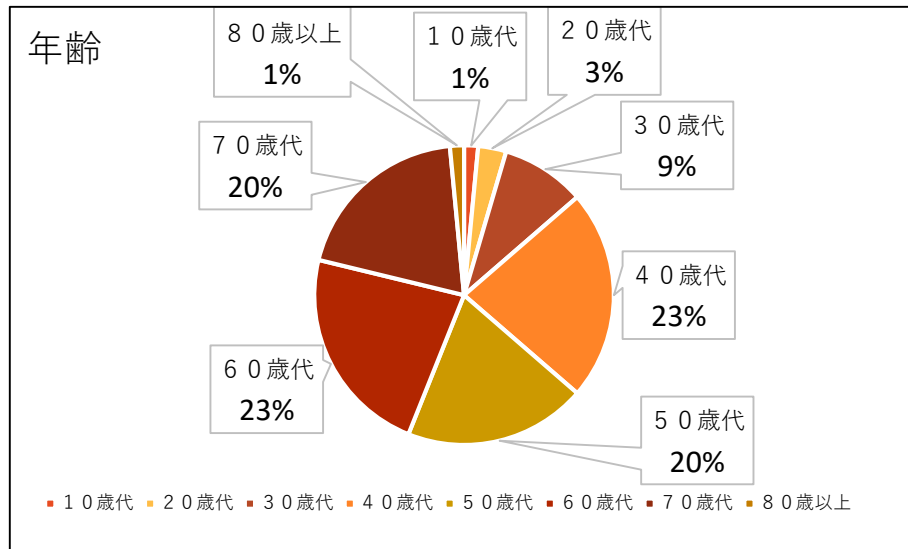
(千葉市)

- ・事業者は、地域の一員としての認識を持ち、地域との調和を図り、その事務所又は事業所が所在する地域の活動や市が実施する市民自治の推進に関する施策に協力し、地域の課題等の解決に努めるものとします。
- ・事業者は、従業員がその居住する地域の活動に参加することに配慮するよう努めるものとします。

(京都市)

- ・事業者は、地域コミュニティの重要性を理解し、その事業所が所在する地域において行われる地域活動に協力するよう努めなければならない。
- ・事業者は、従業員がその居住する地域において地域活動に参加することに配慮するよう努めなければならない。
- ・事業者は、地域コミュニティの活性化の推進に関する本市の施策に協力するよう努めなければならない。

5 参考（第1回ワークショップのアンケート結果）



5 参考（第1回ワークショップのアンケート結果）

基調講演（人口減少日本でこれから起きること）を聞いて感じたことや気づき（意見抜粋）

- ・人口減による影響が様々な分野に起こることを詳しく知ることができ改めて危機感を持った。今後は各世代の職種や様々な人々の知識・知恵を共有して行動することが大切と感じた。
- ・次の世代が楽しめる地域にするために何をするかという先の社会も見据えて地域活動ができればと感じた。
- ・大変な世の中になると改めて痛感。自分たちでできる事は何かをしっかりと議論していく必要性を感じた。
- ・既に知っていたはずなのに、改めて危機感を感じるとともにより一層地域の重要性を感じた。
- ・小さいコミュニティから始めることが大事だと気付いた。
- ・人口減少に対応したコミュニティを含めた社会の仕組作りが必要であることを再確認しました。

5 参考（第1回ワークショップのアンケート結果）

ワークショップで感じたことや気づき（意見抜粋）

- ・ LMOで定期的な情報交換ができる場が必要
- ・ 放送してもらえるようなイベントを実施しその街の魅力を発信する（新聞、テレビ等）。
- ・ 今回市民の立場で意見を多く交わしたことで、普段からコミュニティについての会話が少なすぎると感じた。
- ・ 色んな立場の人で集まることはその時何も起きなくても今後新しい事が起きるのでは、と期待します。
- ・ 地域と企業をもっとうまく繋げる仕組みがあればと思います。地域と繋がっている会社さんは意識も高く、それなりの規模、もしくは個人事業で、本人が自治会に入るなどしていらっしゃって、10～30名程度の中規模の会社は労働者が地域の人ではない場合もあり、地域とつながるのはなかなか難しいなと感じました。

5 参考（第1回ワークショップのアンケート結果）

ワークショップで更に深掘りしてみたかったこと、言い足りなかったこと（意見抜粋）

- ・もっと具体的に他の地域団体がどんな活動をしているのかを聞きたい。
- ・人口減で解決の道としてDX推進等の話が出ませんでした。その意見の交換ができたらいと思います。
- ・「若い人をいかに地域に巻き込むか」という意見が多数出たのでその部分をさらに深掘りしてみたかった。
- ・住民と企業の行動変容をどうするのが大きな課題ですね。
- ・今回、市民のグループで意見を交換する中で、既存の枠をある程度緩めて地域の組織間がよりフラットな関係性を築くことができるようにすることが必要なのではないかという意見が出ました。そのため、例えば、地元の企業、学校から地域コミュニティの活動への理解と協力をどのようにして得ていけばいいのか、これらの組織が負担になりすぎず続けることができる地域との関わり方はどのようなものなのか、ワークショップで深掘りしてみたかったです。

5 参考（第1回ワークショップのアンケート結果）

全体で学んだこと、感じたこと、地域活動に生かしたいこと （意見抜粋）

- ・ 共通の困りごと、課題が意見交換で多く出た。自分の地域でもこのようなワークショップが定期的に必要
- ・ 企業とのコラボが大事だと思った。企業の宣伝にもなるし地域の住民と顔見知りになれる。
- ・ 地域の住民に対し、地域に誇りを持つ人を増やす事が大切
- ・ ワークショップでは、自分が持っていない意見や実際に活動されている方の話を聞くことができるため、とても貴重な場だと感じました。
- ・ 活動参加には、①1人じゃない②気軽に参加できる③関心をよせる④声かけてもらう（誘い）意識付け
- ・ 小さい頃からの教育が大切（感じるができる感性を育てる）地元が好き、自慢できる、プライドを持つなどの教育が大切である。